

第1部 3等賞

鉄の博覧会へようこそ

新潟県長岡市立栖吉中学校1年 渡辺 歩

「21世紀鉄の博覧会へようこそ」

ここは21世紀。今日は鉄の博覧会だ。私は、ちょっと悩みがあって気晴しにここへ来た。ぐると辺りを見回すと、鉄ばっかりだ。いきなり足をひばられた。小さなロボットだ。ドラえもんとはではないけど、なかなかのロボットだ。

「こちらへ」

私はロボットに案内されて会場内を歩き始めた。かなり大きなホールで、みんなロボットに案内されている。私が、まず立ち止まったのは“カラフル鉄”。ロボットが、説明を始める。

「これは、今までの鉄のイメージを変えようと、上から色を塗ったわけではなく、元から色がついたものです。色のはげる心配もないし、かなり鮮かな色づかいとなっております。もちろん今まで通りの銀色の鉄もありますし、好みでいろんな色にすることもできます。ここ一帯はカラフル鉄を使用しております。」と、床を指さす。その先には、色とりどりの床があった。ほかの展示場所は銀色なのに、このカラフル鉄の展示場所だけ、カラフル鉄になっていた。そう、この建物は、すべて鉄でできている。それもただの鉄ではなく、“形状記憶鉄”でできている。それをロボットに聞くと、

「形状記憶鉄とは、形状記憶合金のように、一度形を決めると、曲がったり、割れたりしても元に戻るという優れたもので、この建物も私も、形状記憶鉄でできています。」

と、ナイフが何かを取り出して、自分の腕をぐにゃりと曲げて見せた。そしてお湯を取り出すと、そこにかけた。すると、その腕はみるみる元に戻った。

「このように、お湯をかけるだけで、元通りです。ですから、この建物も地震などがきた場合でも、お湯をかければ元通りです。これは、地震が多いこの日本にはぴったりだと思います。現に地震がきても大丈夫だった、という話も聞いています。もちろんお湯をかけたからといってさびたりはしませんし。」

ちょっと自慢気にロボットは説明してくれた。

次に目に入ったのは、“家庭用鉄工具”。

「これによって、各家庭で、簡単に鉄で工作をすることができるようになりました。今までは工場などでないとできなかった鉄の工作、つまり、鉄でいろんなものを作ることができるようになりました。この工具も、なるべく使い方を簡単にして、誰でも好きなものを作れるようにしてあります。」

ロボットはスラスラと説明していく。

その横で、私はなぜこんなに鉄が進歩したのかを考えた。こんなに鉄が進歩して便利になったのはいいことだと思うけど、このままいくと鉄もなくなってしまうのではないだろうか。木

も、あんなに少なくなってしまったのだし、鉄もなくなる可能性は大きいんじゃないだろうか。そもそも、家庭用鉄工具は木が少なくなったから、今まで木で作っていたような家庭用のものまで鉄で作るようになったのではないだろうか。木は植えれば何十年後には増えるだろう。だけど鉄はどうだろう。たぶん増やせないだろうし、今こんなに活躍している鉄がなくなったら、人間はどうするのか。また鉄に代わる物質を使うのだろうか。私はその事をロボットに聞いてみた。ロボットは笑って、

「その点なら大丈夫です。まだ鉄はたくさんありますし。」でも何十年後にはなくなったらどうするのだ、という私の問いに対して

「きっと少なくなった時点で数を制限されると思います。あ、でもすぐに鉄がなくなったら僕ら貴重品ですね。大丈夫、そういうことがないように、ほら、あれ。」

と言って指さした先にあったのは、やたら大きな機械のような物だった。

「これはですね、鉄のリサイクル機で、いらなくなった鉄もこの中に入れば、元の何もしない鉄の塊になるというもので、どんな鉄でもいくつ入れてもいいという。家庭用鉄工具といっしょに一家に一台あれば便利です。」

まるでセールスマンのようだ。

私は最後のところは無視して、さっさと先に進んだ。出口も近づいたところで、一枚の大きな鉄板が置いてあった。ちょっと急いでやってきたロボットに聞いてみると、

「これは、“心の鉄板”です。迷っている時や悩んでいる時、これに触れると、自分の一番やりたい事が映しだされます。夢や進路に迷っている人などがよく来ますよ。そのほか、今一番見たいものが見れます。触ってみたらどうですか？」

ロボットは、私に悩みがあるのを見透したように言った。一瞬、触ってみようかと思ったけど、

「別にいいよ。悩みなんてないし、もう帰るから。」

と言って出口の方を向いた。ロボットは、

「そうですか。お気をつけて。」

と、にっこり笑っていった。私が歩き出すと、ロボットは、

「よかったですね。」

と言った。私は何の事だかわからず、

「じゃあ」

と一言言って走り出した。振り返ると、ロボットはまたにこにこ笑いながら手を振っていた。なぜか、ホールを出た瞬間に、私の迷いは晴れていた。